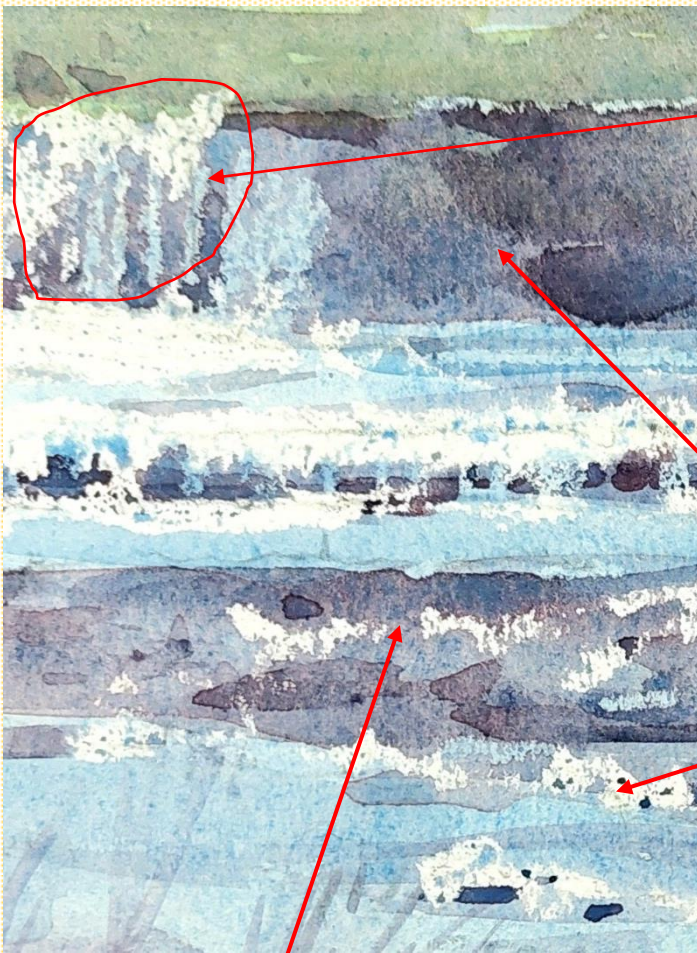


様

オンライン見本です、文章と作品は一致しません

空と稜線の境目が上手く描けないとのコメント。空は背景にあるものではありません。その山の手前にも見えねども空(空気)は存在しています。そう思えば風景の圧倒的な立体感・存在感がイメージできるはず。空を衝立のような背景と思われていませんか？沢にも川にも見えない向こう側にも空気を与えてください。写真から作品を起こしているのよりその捉え方になっていませんか？写真から起こす場合はいかにも実際の風景を眼前にするように思い描いて下さい。

空にはいろんな表情があります。ただただ均一な調子ではない表情を持っています。雲の存在、青さのグラデーション、そのものが存在することによって変化する調子、想像の翼を広げてください。青の深みを作る為に同じ色で良いから何層か重ね、深みを作りましょう。



あまり細かく描かず処理されました。岩や土などのかわが纏っている表面を説明的に描写するよりこんな風にタッチと色面で処理するのは良いかもしれません。予め作られた荒々しいマチエールは川にとって効果的です。空にはそのマチエールはなく、意識的に差を付けられたのは成功です。適材適所です。

この突出はこのような傾きが現実でしょうか、どうも座りが悪いようでずり落ちそうな不安定感が有ります。

この白が浮いています。あとからかけられたようです。この透け具合を見るとジンクホワイトのような半透明を使われているのでしょうか？これは上から抑えた方が良いでしょう。

白色のタッチ、何気なく置かれていますがこれは浮いて見えます。これだけしっかりしたマチエールがついているのですから、それを活かして慎重な筆遣いをしましょう。

何を描くのが大事です。多様な現代です。PC で描く人も、AI で描くことも可能な時代です。何をしようとするのが大事です。描ける人を取るよりイメージーションを大事にする入試も現代の流れでしょう。写真で描く場合、手元に置かないように、50 cmほど離れたところで写真を何かに留めて、描きましょう。そうすれば細部はあまり良く見えません。それは現場で描くことに通じます。面白いのが絶対ではありませんがそのまま引き写しても魅力はありません。どう感じたか、それを作品に落とし込むことが大切です。